にぎわった。このほか、高校生による書道パフォーマンス、コンサート、期間限定の出店、福山シティフットボールクラブ（FC）が場した試合のパブリックビューイングなどがあり、利用は月を追うごとに増えた。

同施設は約5200平方メートルの敷地にコワーキングスペース（共有オフィス）や貸し会議室、イベントスペースなどがあり、全体の半分は市民たちが自由に使えるスペースとなっている。イベントは貸し会議室だけを使ったものから館内全体を生かした企画までさまざま。谷口博輝支配人(33)は「広いスペースが取れて天候にも左右されない。若者が主体となったイベントも増えている」と手応えを語る。

市は半年に1回程度、まちづくりの専門家などでつくる協議会を開き、事業効果を高める方策などを探っている。5月中旬にあった2回目の会合ではこうしたイベントの実績を評価する声の一方、平日の集客を増やすことが課題とする意見が出たという。

（門戸隆彦）

動画は中国新聞デジタルで

突きや蹴り エイッ
220人が真剣勝負
福山で空手道選手権

かけ声とともに技を披露する選手

福山市空手道選手権大会が30日、同市千代田町のエ

男女約220人が出場した。

備後のものづくり 体験して
福山で20日 ミニ畳や豆皿作り

福山市と備後地域地場産業振興センター（同市東深津町）は8月20日午前10時から、地元企業などのものづくりやデジタル技術を体験できる小中学生向けのイベントを同センターで開く。

ものづくりに携わる福山、府中市の16企業・団体が出展し、ミニ畳や豆皿作り、ドローン操縦などを体験できる。無料のコーナーもあるが、事前予約や千～100円の料金が必要なブースもある。

地場産業への理解を深めてもらおうと市と同センターが企画し、3回目。同センターは「備後地域の優れた技術に触れてほしい」と参加を呼びかけている。

午前10時～正午、午後1～3時、3～5時の3部制で、各部の定員は親子80組。1日から同センターのホームページで申し込む。同センター☎084(924)4510。

船の仕組み 工作で納得
親子連れ、工場見学や写生も

▶海上保安官

◀向島ドック

海の仕事 体感したよ

船の工作を親子で楽しむ参加者

尾道市向島町の向島ドックで30日、工場見学や工作教室などのイベントがあった。日本財団（東京）が全国で展開する「海と日本プロジェクト」の一環で、日本中小型造船工業会（同）と同ドックが主催した。

親子連れたち約400人が参加。福山大生の指導で、水を入れたアルミニウム管をろうそくで熱し、発生する水蒸気が動力の発泡スチロールの船を作り、プールに浮かべた。前に進むと、「ポンポン動いている」と歓声が上がった。

船の検査や修繕をするドックで船底を見学したほか、ドックから見える尾道水道や船を描く写生教室、船の修繕に使う高所作業車の乗車体験、溶接訓練をするシミュレーターの操作なども人気を集めた。

船を作った山波小3年の石井蒼真さん(9)は「図鑑で見ていた船をモデルにした。浮力も速さも最強」と笑顔だった。（前田薫奈）

達への
崖に!
褒美に!

愛する逸品レコメンドします!

瀬戸内のイイモノを本気で推薦!

編集部が取材する中で、瀬戸内のイイモノを って、体験してほしい! 自信を持ってオススメ 戸内の愛すべき逸品を しください♪

中村 梅玉